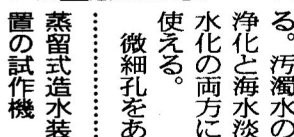


西研デバイズ
と安斉管鉄

低コスト水処理装置

家庭用と同等のソーラーパネルを用いた場合、1日100ℓの水が作れ



の超微細気泡を約60度Cに熱し、減圧したタンクにためた水中に送り込む。熱を帯びた気泡が水中の容積の多くを占める

ので、水温の上昇を促し、低エネルギーで蒸留ができる。

エネルギーを大量に必要としないため、ソーラーパネルを主電源にできる。蒸留した真水の一部はソーラーパネルの冷却に用いる。また、水蒸気の気化熱はヒートポンプにより採取した海水の加熱に使う循環型システム

環境省と文部科学省、気象庁は日本の気候変動

環境省 3.2度C上昇で試算

とし、エネルギー効率を高めた。淡水、海水の両方から蒸留が可能。

離島や船舶用など、大規模な造水装置の設置が難しい場所へ導入を目指す。西研デバイスが微細気泡の発生装置を開発し、安斉管鉄は熱交換システムを設計する。